

はじめに

東日本大震災の発災から4年半が経過し、漁船や養殖施設など生産基盤の復旧については漁業者の方々の要望に基づきながら復旧を進め、平成26年末までに、それぞれ目標の96%、99%までに達しました。

この間、多くの皆様から寄せられました暖かいご支援に感謝申し上げます。

大震災津波による水産業の被害は甚大であり、まさに壊滅状態となりました。この壊滅状態となった水産業の復活支援こそが我々水産技術センターに課せられた大きな使命であると肝に銘じ、平成26年度は「水産業の復興へ 夢と希望を 技術で支援」をキャッチフレーズに、漁業及び水産加工業の復興を支援し、夢のある水産業の実現を目指して取り組んで参りました。

平成26年度の本県漁業であります。本県漁業の枢要をなす秋サケについては、震災年の放流魚が4年魚で回帰する年で、どの位少なくなるのか大変心配でありましたが、結果は526万尾と平成25年並みとなりました。震災前から漁獲量の低迷が続いており、その対策を研究するため、平成26年11月に釜石市の熊野川に120万尾生産規模の「サケ大規模実証試験施設」を整備し、27年春には飼育密度別試験を行ったところであります。

アワビについては、震災による稚貝の流出や震災以降の放流量減少など、漁獲量の減少が想定され、まだまだ震災の影響が続くものと危惧しておりますが、復旧した種苗生産施設により、平成27年度には震災前を上回る890万個の種苗放流を予定しており、経費節減のための二次成熟卵使用技術や初期餌料の大量培養技術の普及に努めていきます。

水産業の復興には“漁業担い手の確実な育成”が欠かせませんが、漁業センサスによりますと岩手県の漁業就業者数は平成20年の9,948人から平成25年は6,289人へと40%近く減少し、震災により減少に一層拍車がかかったようであります。ただ、専業の方々は平成5年より増加しておりますので、このような方々を中心に岩手の漁業を復興・発展させるための技術開発・普及を進めて行きたいと考えております。

今後も現場ニーズを的確に捉え、本県水産業が持続・発展するための試験研究を進めることとしておりますので、今後とも御指導のほど、よろしく申し上げます。

平成27年9月

岩手県水産技術センター所長
佐久間 修

